

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立小野小学校

【結果について】

《概要》

本校の平均正答率は、国語は66%、算数は65%、理科は63%という結果でした。平均正答率は、国語と算数では全国平均を少し上回り、理科はほぼ同じ結果となりました。国語では、学習指導要領の内容別に見ると、「話すこと・聞くこと」で平均正答率が76%を超えたものの、「書くこと」に弱さが見られました。算数では、学習指導要領の領域別に見ると、「数と計算」では75%を超え、基礎基本の内容は定着しつつあることがわかりましたが、「データの活用」領域で少し落ち込みが見られ、資料から正しく読み取る力や、考え方を文章で分かりやすく記述できる力が不十分であることがわかりました。理科では、「エネルギーを柱とする領域」で落ち込みが見られ、実験結果から他者視点を通して解釈したり、自分の考えを持って記述したりする力が弱いことがわかりました。質問紙調査では、「人が困っているときは、進んで助けますか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」「友達と協力するのは楽しいと思いますか」やICTの活用力等の項目で肯定的な回答が全国の回答率を大きく上回りました。一方で、「1日あたりのゲーム時間2時間以上」「平日・休日の授業以外の勉強時間1時間以上」等で肯定的な回答が全国の回答率を大きく下回りました。また、「国語や算数の学習が好き」と答えた児童は半数以下でしたが、9割以上の児童が教科の学習は大切であり、将来役に立つと考えていることがわかりました。

《強み・弱み》

授業では、iPadを活用し、友達と考えを共有したり意見を出し合ったりして学びを進める姿勢が身につけてきています。質問紙の「友達と協力するのは楽しいと思うか」やICTの活用等の項目で、肯定的な回答が全国平均を大きく上回っており、ICTを活用して子どもたちが主体的に学ぶ姿勢がよく見られるようになりました。また、令和3年度の全国学力・学習状況調査の結果を受け、「書くこと」領域の指導改善に取り組んだことにより、定型文などを活用して自分の考えを記述する課題で正答率が上がりました。しかし、自分の考えを条件に合わせて記述する力や、他者視点から考えたことを記述する力に弱さが見られました。このことから、低学年から系統的に積み上げて実践していくことが大切であることがわかり、授業の中で友達の立場から考えを述べたり伝えたりする活動を積極的に取り入れていくことが必要だとわかりました。

質問紙調査では、生活に関する項目を見ると、平日にゲームやSNS等の視聴をしている時間が2時間以上という児童が50%、1日あたりの授業以外の学習時間が1時間以下（平日）の児童が50%、（休日）が43%となっており、家庭での時間の使い方に課題が見られることがわかりました。このことから、学習習慣をつけることや、時間の管理の大切さを児童自身が理解して取り組めるよう指導を進めていきたいと思えます。

【指導の充実に向けて】

『小野小スタンダード』

課題発見 子どもと一緒に設定した具体的なめあてをもって学習を進めます。

見通し 45分の授業や単元の流れに見通しを持ち、明確なゴールを意識して学習を進めます。

学び合い 言語活動を重視し、子ども同士の意見交流や話し合いを中心に据えて学習を進めます。

板書 45分の授業の流れが視覚的にとらえられる板書によって学習を助けます。

ふり返り 設定しためあてに立ち返って学習をふり返ることにより、成果を確かなものにし、課題を次の学習に生かします。

◇上記の『小野小スタンダード』に沿った授業改善に引き続き取り組み、子どもの学習意欲を高め、子どもが充実感を得られる授業を目指します。

◇全学年で「漢字の広場」の学習を充実させ、漢字学習や文作りなどの言語活動の学習改善を図ります。

◇解き方、考え方などの学習のあしあとがわかるように整理し、自分の考えを説明できる児童を目指し、学習指導を行います。

◇ご家庭の皆様と連携して、生活時間の見直し、ルール作りに取り組みます。